



あの記事は今 No.1

「いせさき街並み研究会」の取り組みの今

いせさき街並み研究会代表 栗原 昭矩

その後の活動

平成23年の活動紹介から4年後の平成27年11月の日曜日、田島弥平旧宅案内所に40人の親子が集合しました。案内所で学習後旧宅までのまち歩きへ出発。到着した旧宅で詳しい説明を聞き、おもてなし広場で桑茶休憩、さらに境島小学校へ向かい旧宅のペーパークラフトづくりに挑戦です。悪戦苦闘しながらも親子での協働作業で立派な旧宅が完成しました。楽しかったという子ども達だけでなく、地域の歴史に触れる貴重な機会をありがとうございました、と語るお父さんお母さんの言葉に、活動の手応えを実感できる一日となりました。



田島弥平旧宅の解説

見えてきた活動の方向性

「親子で楽しむまち歩きとペーパークラフトづくり」も今回で5回目となりました。旧伊勢崎駅舎、旧時報鐘楼、いせさき明治館、境赤レンガ倉庫、そして田島弥平旧宅と対象を替え、今年も第6弾として「旧群馬県蚕業取締所境支所」を計画中です。当活動は解体が決まった旧伊勢崎駅舎の記憶をなんとか市民の心に刻むための模索から発案されたものでしたが、次第にその視点は明確になっていきました。「建築」という職能と地域を結ぶ活動に継続的に取り組む、次の世代を担う子ども達にこのまちの歴史や魅力を伝え「ふるさと伊勢崎」という種を植える、理論ではなく体験を通して具現化する、等です。



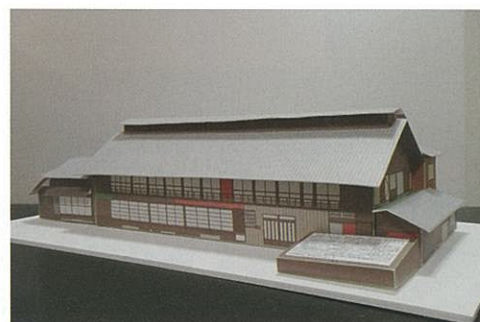
親子でペーパークラフトづくり

活動の原点を探る

平成15年の発足以来、大谷石蔵の悉皆調査や散策マップの作成、まち歩きの案内人、まちづくりトークセッションの開催等を行ってきましたが、貴重な古い建物は姿を消していきました。貴重と思われる古い建物や道の形態は、このまちのDNAとして無くしてはいけないものであるという市民意識の醸成を模索する中、活動の目線が子ども達へ向けられるようになりました。我がまちを築いた先人の営みを知り、地域の歴史と関わる建物のクラフトを親子で楽しく頑張って作り上げたという喜びの記憶が、いつしかふるさと伊勢崎への愛着と誇りの種となっている、そんな心の醸成にささやかでも貢献できる喜びを、子ども達の笑顔と一生懸命な姿から実感できることがメンバーの活動への内発力の原点となっていると思われます。言葉を替えると、自分たちの時間を人のために使う喜びです。いつの間にか発足から13年経ち、近年県や国からまちづくり功労者表彰を頂いたことも活動のインセンティブとして、今年もひとつ来年もひとつと地道な活動に取り組んでいきたいと考えています。



旧伊勢崎駅舎ペーパークラフト



旧田島弥平旧宅ペーパークラフト

